

国土基盤専門委員会（12月2日） 話題提供メモ

家田 仁

目次

1. まずは入り口論
2. これまでの「国土計画」と今度の「国土計画」をどうみるか？
3. 各論(1) 国土の「質」を改善する・失った「質」をとりもどす～引き算の国土形成～
4. 各論(2) シームレス・アジアを創る～技術・制度・広域交通施設上のボトルネック発見と解消～
5. 各論(3) 三つの安心を確保する
6. 各論(4) 交流に不可欠な地域のアイデンティティ～利便化・普遍化と裏腹に～
7. 各論(5) ハイブリッド・オープン交流を促進する

1. まずは入り口論

- 1) 「国土基盤」とは何なのか？
 - ・ 国土と社会基盤？
 - ・ 国土における社会基盤？
 - ・ 国土スケール（で考えるべき）社会基盤？
 - ・ 大きな地理的スケールで考えるべき社会基盤
 - ・ 国民的・国家的視点から考えるべき社会基盤
- 2) 専門委員会で扱うべき国土基盤の対象は？
 - ・ 認識・理解・分析作業上の一般的な社会基盤？（概念は広い。ex.ソーシャルキャピタル）
 - ・ 計画アクション策定上の社会基盤？
 - （公共事業、公益事業、PPP 的事業など政策が強く影響しうる対象で限定的）
 - ・ 両者を明確に区別しつつ、しかし併行して議論する必要？
- 3) 他の専門委員会との連携・分担関係は？
 - ・ 共通の現状・将来認識の育成、共通のあるべき方向性認識
 - ・ 計画アクション策定上の役割分担の明確化
 - ・ 特に、国際交流、自立的な地方部、国土管理の三つの専門委員会とは十分な連携が必要。
（それでも、農業と森林が抜けている感覚は否めないのでは）
- 4) 全国計画とブロック計画の意味と関係
 - ・ 全国：方向性？ ブロック：具体？
 - ・ 全国：方向性と選択肢提示？ ブロック：選択と具体化？
 - ・ 全国：方向性と汎ブロック基盤の具体？ ブロック：ブロック内基盤の具体？

2. これまでの「国土計画」と今度の「国土計画」をどうみるか？

- 1) 戦後初期の国土計画：
- ・大幅縮小した国土の中でどう食っていくか？の危機感
 - ・戦前の総動員計画の系譜に立った「護送船団型の計画と管理」

2) 高度成長期の国土計画

- ・「国土の均衡発展」：発展と地域格差是正を両立させた数少ない成功事例。副作用も多い。

3) それ以降の国土計画

- ・バブリーな、富める国の悩み、イメージ中心の抽象コンセプトの傾向。
- ・切迫感と現実感に薄いのでは。国土計画に対する国民的信頼は？

4) 今度の国土計画の基本トーンは？

- ・「危機感・大転換・断固実行」が基本であるべきでは？

3. 各論(1) 国土の「質」を改善する・失った「質」をとりもどす～引き算の国土形成～

- ・足し算の国土開発：便利さ、豊かさ、欲望と利に席卷された国土、
- ・その裏腹に国土の「雑然化」「誇りとアイデンティティの喪失」「大地から離れた国民」「コモンズ概念の喪失」
- ・一方でそれでも貧困な社会基盤と工夫のない作り方と使い方
- ・「隅から隅まで美しい」「隅から隅まで誇りをもてる」「隅から隅まで気を使った国土と産品」：それこそが「Japan Brand」であるべき。
- ・双方向の国土と地域マネジメント：しくみの原点は「ユーザーとの協働型国土マネジメント」
- ・引き算の視点：美しく、安全に、暖かく（「暖かい集住」のすすめ）

4. 各論(2) シームレス・アジアを創る～技術・制度・広域交通施設上のボトルネック発見と解消～

- ・対中国など近距離国際輸送の増大大→積み替え・乗り換え・端末コストの削減圧力の高まり→直行速達型輸送（ex.RoRo 船）のニーズ拡大
- ・一方で、コンテナ船など更に大型化による規模の経済拡大→拠点化も進展
- ・陸の統合：EU、海の広域経済圏：東アジア
- ・「二重の国際輸送体系」化？（国際ハブ+ブロック拠点+ローカルターミナル）
- ・シームレス・アジア化に向けた技術・制度・広域交通施設上のボトルネック発見と実効的対応

5. 各論(3) 三つの安心を確保する

- ・わが国の特長(1)：四季折々の風景、変化に富んだ地形や生態、繊細な感性、自然と折り合いをつける生き方...これらは自然災害の多様さと甚大さと裏腹：しかも大型化・頻発化する自然災害
- ・わが国の特長(2)：もっとも犯罪の少ない（少なかった）国
- ・三つのハザードからの安心：
 - ・自然災害からの安心（大型化する災害に備える）
 - ・犯罪や事故からの安心（わが国の美点をとりもどす）
 - ・デジタル・ハザードからの安心（新たなハザード）
- ・特に重要な中山間地の「孤立化対策」：水や食糧ばかりでなく、「電力と電波」の確保

6. 各論(4) 交流に不可欠な地域のアイデンティティ～利便化・普遍化と裏腹に～

- ・わが国の国土構造を分析する：交通の利便性と暮らしの向上、経済の統合、そして普遍化、意味論的拠点性の喪失
- ・交通利便性は交流促進の不可欠の装置、同時に地域の「アイデンティティづくり」が不可欠：二つは両輪
- ・「さやえんどうまめコンセプト」：独自性とアイデンティティ
- ・交通利便性（交通軸）とセットで（ex.山形新幹線と地域づくり活動）

7. 各論(5) ハイブリッド・オープン交流を促進する

- ・二層の広域圏、空白地域、定住人口から交流人口へ
- ・「汎住民」コンセプト：日常＋半日常＋非日常
- ・エコツアー、スローライフ、体験と参加と貢献、地域を学習、リピーター、名所・旧跡・世界遺産だけではない日常空間にこそ魅力？かつての「路上観察学」
- ・狭義の「観光」を超える概念と名称が不可欠：もはや「光るところ」を「観る」だけじゃない。
- ・ハイブリッド性（だれでも：よそもの）とオープン性（いつでも）の高い交流のしくみづくりが要。